

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 7 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏 名	松下 幸生
研究課題	資源の依存性 3 つ要因からみる組織間関係の動態的な変遷（下）—1950 年代前半～2000 年頃—				
研究キーワード	資源の依存性 下請制論 資源ベース論	当年度計画に対する達成度		1.目標を超える研究の進展・成果を達成した	
関連する SDGs 項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	該当なし		該当なし	該当なし

1. 研究成果の概要

上記「研究課題」に対応する論文（査読なし）1 点、ならびに、貢献程度の低さを否めないが建設政策研究所（理事）の役割 1 件を研究計画どおりに達成した。それとは別に、論文 1 点（査読なし）、機関誌掲載 1 点、成果口頭 2 点、その他の活動 2 点に取り組んだ。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

- なし

【著書・論文（査読なし）】

- 松下幸生[2024], 「資源の依存性 3 つの要因からみる組織間関係の動態的な変遷（下）—1950 年代前半～2000 年頃—」, 『千葉商大論叢』, 第 62 巻 1 号, pp.141-160, 千葉商科大学.
- 松下幸生[2025], 「労働と経営の一要素としての通過儀礼—江戸時代から大正時代における米沢の繊維業を対象に—」, 荒川俊彦編, 『国府台経済研究—労働観の表象と変遷に関する比較歴史社会学的研究—（千葉商科大学経済研究所 2022 ～2023 年度共同研究）』, pp.7-27, 第 34 巻, 千葉商科大学経済研究所.

【その他（機関誌）】

- 松下幸生[2024], 「経営者インタビュー：行者菜の価格設定と取引先の分散—行者内生産グループと行者菜の紹介—」, 千葉商科大学総合研究センター編, 『CUC View & Vision』, No.58., pp.51-57, 千葉商科大学.

【学会発表等】

- なし

【成果報告会】

- 松下幸生[2024], 「通過儀礼の一要素としての労働と経営—江戸時代から大正時代における米沢の繊維産業を対象に—」, 荒川敏彦・師尾晶子・朱珉・奥寺葵・松下幸生『労働観の表象と変遷に関する比較社会学的研究』. （2024 年 12 月 20 日 於 千葉商科大学）
- 松下幸生[2025], 「「経営者インタビュー」さわのはな倶楽部合同会社成果報告（中小企業経営研究所 2024 年度定常的プロジェクト）」, 千葉商科大学総合研究センター, 『総合研究センター研究フォーラム』. （於 千葉商科大学）

3. 主な経費

- 研究用途にノートパソコン、ソフトウェア、メモリ、ならびに、関連書籍の購入や文具代に使用した。

- 研究活動継続のために、学会年会費、学会大会参加費を振り込んだ。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【その他の活動】

- 特定非営利活動法人 建設政策研究所 理事（2020 年 12 月～）
- 労務理論学会 第 34 回大会実行委員 会計担当（2024 年 8 月 2 日～4 日 於 千葉商科大学）
- 総合研究センター定常的プロジェクト「経営者インタビュー」研究代表（2024 年 4 月～2025 年 9 月）

（本文は 2 ページ以内 にまとめること）